

薬師堂(元の薬師如来堂)

薬師堂は、成田山新勝寺の旧本堂の中で最も古い建物である。1655年に建立されたが、釈迦堂が建てられた後の1855年に、境外の表参道沿いにてあるこの場所に移築された。

薬と癒やしの仏である薬師如来(Bhaiṣajyaguru)は、醫王殿に移される前、この建物に祀られていた。参拝者たちは、健康と長寿を薬師如来に祈るためここを訪れた。そのうちの一人、有名な歌舞伎役者である初代市川團十郎(1660-1704)は、子宝に恵まれず、江戸元禄期(1688-1704年)にこの場所で子授けを祈願したと言われている。のちに、彼に息子が生まれた。團十郎は(歌舞伎の)舞台上で、成田山新勝寺の御本尊である不動明王を演じてこれを祝い、歌舞伎の市川家は「成田屋」というステージネーム(屋号)を得た。それ以来、彼の子孫も代々、新勝寺と強い縁を持ち続けている。

1969年に、薬師堂は成田市により有形文化財に指定された。